

宮城県 仙台市

久野 由人（教育部）



担当業務の内容

私は、宮城県災害対策本部から東京都市長会を通じて、仙台市への職員派遣要請があり、平成23年7月25日から31日までの7日間、宮城県仙台市泉区の復旧・復興の一助となるべく、市を代表して行かせていただきました。

担当した支援内容は次のとおりです。

〇り災証明認定調査事務

「り災証明書」の発行申請のあった被災家屋を一軒一軒訪問し、建物の被害度合いを調査認定する業務。

※「り災証明」⇒建物に被害のあった方が、被災状況について保険等の手続きや会社への提出の際に必要な証明書類。



[写真]津波により被災した家屋

苦勞したこと・工夫したこと

派遣職員は二人一組で、1日20~30件の被災建物状況調査を行いました。真夏の炎天下での調査だったため、かなり体力を消耗する作業でした。熱中症にならないよう水分補給をこまめに行いながら住宅地図を頼りに、短い時間で少しでも数多くの被災建物を調査出来る様に行程を工夫しながら、一軒ずつ訪問し、調査を行いました。

印象的なエピソード

地域や建物によって被害の程度に差があり、瓦が落ち屋根がビニールシートで覆われたままの家屋や、基礎がずれ内壁が崩れ落ちた家屋等、まだまだ余震が続き、修繕もおぼつかない状況の中で不便で不安な生活を余儀なく強いられているお宅が多く、被災された方々の心中を思うと、本当に心が痛みました。そんな中、訪問した先々で、東京から応援で来ている派遣職員である旨を告げると、「わざわざ、仙台のために来てくださってありがとうございます。暑い中ご苦勞様です。」と明るい笑顔でお礼を言われ、逆に我々の健康を気遣ってくださった事が印象に残っています。少しでも役に立てればとの思いでお手伝いをさせていただいている我々の方が逆に励まされ勇気をいただいた様な気持ちになりました。そんな仙台の方々の暖かい前向きな姿とお気持ちに、ただただ頭が下がる思いでした。

所感

私がこの派遣業務に参加させていただいたのは、3.11の震災以降、被災地復興のために何か自分に出来る事はないかとの思いを日々抱いていた折、派遣業務内容が被災建物認定調査だったこともあり、自分の職務経験や知識が少しでもお役に立てればとの思いで志願させていただきました。7日間という短い期間でしたが、被災地の現状を知り、復興への道のりはまだ道半ばであるとともに、今後も継続的な支援が必要であると痛切に感じました。また、公務員として地道に目の前にある日々の業務への取り組む姿勢が大切であると同時に、責任の重さを改めて感じる貴重な経験をさせていただきました。結びに、快く送り出してくださった職場の皆さんに感謝いたしますとともに、被災地の方々の御健康と一日でも早い復興をお祈り申し上げます。